

1. 研究プロジェクト名	デジタル技術を用いた比較考古学	
2. 研究プロジェクト代表者	和田晴吾	
3. 研究班 メインとなる研究班 その他		京都文化研究班
		日本文化研究班
		歴史地理情報研究班
		デジタルアーカイブ技術研究班
		Web活用技術研究班
4. 研究期間	2011年 4月 ~ 2012年 3月	
5. 研究メンバー		
種別	氏名	所属・職名
事業推進担当者	和田晴吾	立命館大学大学院文学研究科・教授
特別招聘教員		
研究員		
客員研究員		
PD		
RA		
学内研究協力者	矢野健一 塚本敏夫 南部裕樹 崔栄柱	立命館大学文学部・教授 立命館大学・非常勤講師 立命館大学・非常勤講師 立命館大学大学院文学研究科・博士課程後期課程2年
その他	劉振東	中国・社会科学院考古研究所・研究員 外国人客員研究員（学振論博事業）

6. 2011年度教育研究計画（今年度の教育研究内容、目的と結果の予想の関係が理解できるようにご記入ください。特に若手研究者（研究メンバーのPD、博士課程後期課程大学院生）の役割、教育効果を具体的にご説明ください）。

1. 淀川水系の遺跡情報システムの構築に向けて（古墳時代遺跡を中心に）

- ・京都府と大阪府の基礎資料の収集はほぼ完成し、今後は滋賀県琵琶湖沿岸域の資料を加えたいと考えている。
- ・古墳資料の編年的分析結果の歴史的意義の検討については、これまで木津川両岸（南山城）、桂川両岸（嵯峨野・乙訓ほか）、淀川右岸（三島）等を終了。昨年度行った淀川左岸（枚方・交野ほか）のシンポジウムの成果は近々交野市教育委員会から書物として刊行される予定である（最終校正終了済み）。このことによって、琵琶湖沿岸域をのぞく地域の比較研究が可能となった。

2. 大阪府岸和田市久米田貝吹山古墳石棺の3次元計測と形状復元

- ・3次元計測は昨年中に終了しており、今年度は形状復元を検討する。同古墳の報告書は2012年度に岸和田市教育委員会から刊行される予定で、成果はそこに納められる。
- ・全国の石棺に関しては、昨年度の日本考古学協会兵庫県大会において、石棺各種（割竹形・舟形、長持形、家形）の集成が行われており（代表：和田担当）、指標となる石棺の3次元計測も試みてみたい。

3. 古代東アジアにおける墳丘墓（古墳など）の比較研究

- ・この間、和田は日本の古墳文化を古代東アジア文化の中で再評価する目的で、日中・日韓の研究成果と比較する試みを行ってきた。韓国でのシンポジウムに参加したり、中国の墳丘墓を踏査しているのはそのためである。
- ・この研究は他の外部資金（学振論博事業・中国社会科学院）の援助を受けているが、これまでの踏査（2007年度・西安市周辺、2008年度・安陽市・洛陽市周辺、2010年度杭州市・南京市・徐州市周辺）の延長で関連墳丘墓を踏査する予定でいる。
- ・また、これまでの古墳の思想的・宗教的意味の検討成果を『古墳の他界観 - 古墳とは何か - 』としてまとめる予定でいる（吉川弘文館から出版予定）。

* GCOEと直接関連する院生はいないものの、以上の古墳時代研究を学生・院生とともに、その教育も兼ねながら、推進して行きたい。

7. 教育研究計画・方法		
教育研究目的を達成するための計画・方法、実施する場所をできるだけ具体的に記入してください		
実施時期	計画内容	実施場所
2011.4～12	上記1に関連する活動 淀川左岸のシンポジウムのまとめは5月頃刊行予定。	文学部学芸員資料展示室（啓明館）
2011.7～9	塚本敏夫・南部裕樹氏等の協力を得て、実施予定。 可能ならば現地（古墳）で石棺の3次元計測を試みる。	同上
2012.1～3	『古墳の他界観』の刊行をめざす。 また、この間に10日前後、中国の墳丘墓踏査。	中国